

カメラータ・ナガノ

第22回定期演奏会

【PROGRAM】

W. A. モーツァルト／セレナーデ 第11番 変ホ長調 K. 375

Wolfgang Amadeus Mozart Serenade in E flat, K375

- I Allegro maestoso
- II Menuetto
- III Adagio
- IV Menuetto
- V Finale (Allegro)

C. M. ウェーバー／クラリネット協奏曲第2番 変ホ長調 Op. 74

Carl Maria Friedrich Ernst von Weber Clarinet Concert No.2 in E flat major, Op. 74

- I Allegro
- II Romanze. Andante con moto
- III Alla Polacca

…休憩…

松下 功／天空の調べ(2011)

Isao Matsushita "Air of the Firmament" for Violin 6 chamber orchestra

L. V. ベートーヴェン／交響曲第1番 ハ長調 Op. 21

Ludwig van Beethoven Symphony No. 1 in C major, Op. 21

- I Adagio molto – Allegro con brio
- II Andante cantabile con moto
- III Menuetto (Allegro molto e vivace)
- IV Adagio – Allegro molto e vivace

2012 年 2 月 5 日 (日)

ホクト文化ホール (長野県県民文化会館中ホール)

開場:13:30 開演:14:00



ごあいさつ

昨年、日本を襲った未曾有の災害からもうすぐ1年が経過しようとしています。被災地では、いくつもの尊い命と財産が失われたり、さらに原発事故で故郷を追われたりと、日本は太平洋戦争以来の悲劇に覆われました。また私たちの郷土、長野県でも栄村の大地震で大変な被害を受けました。

そんな中で私たちは本日第22回定期演奏会を迎えました。いつもどおりの日常の中で音楽ができるよろこびに感謝しつつ、平成24年が皆さんにとって本当にいい年になるよう、明るい素敵な曲を選びました。

第1部ではモーツァルトの管楽セレナーデと、ウェーバーのクラリネット協奏曲第2番を聞いていただきます。やはり木管アンサンブルは私たちの原点です。ウェーバーのクラリネット協奏曲は、数あるクラリネット協奏曲の中でも難曲中の難曲です。独奏はもちろん、私たちカメラータ・ナガノの創立メンバーで、現在はトレーナーをしていただいている傳田高廣さんです。

第2部の最初には、松下先生の作品である、天空の調べをお聴きいただきます。この曲は昨年の11月に松下先生の還暦コンサートで初演された曲です。詳しくは曲目解説に譲りますが、この度の震災で犠牲になった方々、復興にむけてがんばっておられる皆さんへの祈りが込められています。そして最後には、若きベートーベンが書いた、交響曲第1番を聴いていただきます。すべて、エネルギーあふれる曲ばかりです。

日本への祈りと、エールを込めて演奏いたします。前を向いて。

カメラータ・ナガノ 代表 縄田昌司

Profile



松下 功

Isao

Matsunaga

東京藝術大学、及び同大学院を修了後、ベルリン芸術大学で研鑽を積む。日本音楽コンクール作曲部門入賞、メンヒュングラードバッハ国際作曲コンクール第1位、第7回入野賞受賞。「World Music Days グラーツ大会・香港大会・メキシコ大会」、「ベルリン芸術祭」、「アジア音楽祭」等、多くの音楽祭でその作品が演奏される。1996年には、北京において「松下功管弦楽作品演奏会」が開催される。2000年には、和太鼓協奏曲「飛天遊」がベルリン・フィル・ワールドビューネコンサートで演奏され、25000人の聴衆から絶賛される。

作曲・指揮・音楽企画など幅広く活動し、「アジア音楽祭2000 in 横浜」「アジア音楽週間2003 in 東京」の実行委員長を務める。アジアの現代音楽に詳しく、アジア各地の作曲家との交流も深い。指揮者としても古典から現代まで幅広いレパートリーを持ち、札幌交響楽団、上海交響楽団、東京フィルハーモニーなど、各地のオーケストラを指揮している。

長野においては、冬期オリンピック・行進曲「信州民謡パラフレーズ」、オペラ「信濃の国・善光寺物語」の作曲を担当する他、善光寺で「第九奉納演奏会」、白鳥バレエ学園との「白鳥の湖」、「コッペリア」等を指揮するなど、長く長野に根付いた活動を行っている。2004年11月には白鳥バレエ学園からの委嘱により、バレエ「戸隠物語」を作曲・指揮し、公演を成功に導く。また、2006年10月には、長野の八幸会委嘱による邦楽合奏とオーケストラのための「誘いの舞」を八幸会とカメラータ・ナガノにより初演し好評を博す。

現在、東京藝術大学演奏芸術センター教授、アンサンブル東風代表、カメラータ・ナガノ音楽監督兼常任指揮者、文京区民オーケストラ指揮者。



傳田 高廣

Takahiro

Ueda

＜クラリネット＞

長野市出身。武蔵野音楽大学クラリネット科卒業。千葉国夫、村井祐児の各氏に師事。在学中の1972年にNHK毎日音楽コンクールクラリネット部門入選。ドイツの国立ケルン音楽大学に入学し、ランツ・クライン氏に師事。1975年スイス・バーゼル音楽院に入学、ハンス・ルドルフ・シュタルダー氏に師事し卒業。ソリスト・ディプロマを取得。帰国後、ドイツ・バッハザリステン、フランス・リヨン管弦楽団、ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団など国内外の演奏家と共演。また、2004年秋に長野市でサイトー・キネン・オーケストラ主席クラリネット奏者カール・ライスター氏と共演。2005年、待望の初アルバム「ブ람ス・クラリネットソナタ」を発売。

＜バイオリンソロ＞

長野市在住。7歳よりヴァイオリンを始める。才能教育音楽学校(現…スズキ・メソード国際音楽院)卒業後、スズキ・メソードにて指導にあたり現在に至る。これまで伝田充正・ジュリアンマイヤー・故鈴木鎮一各氏に師事。現在、カメラータ・ナガノのコンサートミストレスを務める。

『天空の調べ』を演奏するにあたり、昨年東京で初演ソリストを務めた澤和樹氏(芸大教授)に指導を受ける。

外山 陽子

Yoko

Toyama



モーツァルト セレナード 第11番 変ホ長調 K375

セレナード第11番変ホ長調は1781年に作曲されている。初めはクラリネット、ホルン、ファゴット各2、計6本の管楽器の曲として作られたものであったが、翌1782年の7月に、モーツァルト自身によって2本のオーボエが付け加えられ、現在では8重奏の形で演奏されている。なお、この他に、2本のイングリッシュホルンを加えた10本の管楽器による楽譜の原稿もある。

曲はウィーン宮廷に仕えていたH. フォン・ヒッケルの妹のために書かれたが、この曲についてはモーツァルト自身が父レオポルト宛の手紙で触れている。それによると、10月のある晩、床についていたモーツァルトは、自分が住んでいる家の中庭でこのセレナードが演奏されているのを聴いて驚いたという。セレナードなどの楽曲の演奏に慣れている楽師たちが、この美しい作品の作者に対して敬意を表するために、ちゃんと勉強した上で演奏したのであった。夜の静けさを打ち破って鳴り響いた自身の変ホ長調の和音は、確かに彼の目を見張らせるほどのものだったと思われる。モーツァルトの若々しいながらも、確かな技法と豊かな内容は、今までの作品には珍しい深さと幅を与えている。

カメラータ・ナガノ独特の木管楽器の響きでお楽しみください。

ウェーバー クラリネット協奏曲第2番 変ホ長調 作品74

この曲は「第1番」のクラリネット協奏曲に引き続いて作曲され、「第1番」の協奏曲同様、クラリネットの名手、ベールマンのために書かれたものである。ベールマンの美しい音色、優れた技法、深い感受性は、メンデルスゾーンなどの他の作曲家をも驚嘆させ、ウェーバーにクラリネットの曲を書かせるに至ったほどであった。

この「第2番」の協奏曲は、「第1番」よりも明るくて、ときには軽快で抒情的な性格をみせる。第2楽章ではいかにも歌劇作曲家らしい面をみせている。一説には、「第1番」の協奏曲で満足しなかったベールマンがウェーバーに注文を出し、もっと華やかでクラリネットの良さを引き出させるような曲を書いて欲しいと言ったともいわれるくらい、クラリネットの魅力を十分にひき出している曲と言える。途中には超絶技巧とも言えるようなフレーズが入っていて、聴くものを圧倒させる。

本日は、かねてからの希望が実現し、我が団のトレーナーである傳田高廣氏をソリストに、この曲を演奏することになりました。傳田高廣氏のスーパーテクニックと音楽への深い造詣をお聞きください。

松下 功 天空の調べ（2011）

音楽監督である松下功は、昨年還暦を迎えた。それを祝して松下功還暦記念コンサート「天地響應」が昨年11月に東京で行われた。この演奏会で松下功は、彼の作曲活動の根幹を支えている洋の東西、伝統と現代という4つの方向性を統合することを表したいと考え、京都・東寺にある空海が作った立体曼荼羅のように、音楽と空間設計による「曼荼羅」を表現した。演奏会会場は音楽会場としてだけではなく、飛天、曼荼羅が掲げられ、時間軸も曼荼羅の構成をもとに設計された「祈りの空間」を形成していた。

その演奏会の一番最初に演奏されたのが《天空の調べ》である。この曲では、「菩薩」の慈悲の心を表出したいと考えた。昨年は、東日本大震災で多くの尊い命が失われた。昨年の震災直後に書いた《天空の祈り〜とうとき命に〜》に続く作品であり、ヴァイオリンの調べに誘われ、安らぎと調和の世界を表出している。そして、天の多くの命への鎮魂の思いを込めている。冒頭より始まるヴァイオリン・ソロは、室内オーケストラの音響に支えられながら、両者は常に寄り添いながら天空へと飛翔していく。

ベートーヴェン 交響曲 第1番 ハ長調 作品21

ベートーヴェンがウィーンに移って8年、30歳を迎える1800年初頭に完成した最初の交響曲。外見上はハイドンやモーツァルトを模範としているが、モーツァルトの精神をハイドンから受け継いだ結果であり、未来のベートーヴェンの交響曲を予示した作品である。満を持して発表されただけあって、革新的な特徴を多々有している。まずは、「誤った調」と呼ばれる第1楽章の開始部。ハ長調の下属調（ヘ長調）の属7和音で始め、主調のハ長調に入らずにうろうろするという手法。これによって主部の開放感が増すことになる。以下全体的に転調が妙味を發揮。第2楽章も緩徐楽章としては動的でリズム変化に富んでおり、第3楽章はメヌエットながら既にスケルツォの性格をもつ。第4楽章は序奏自体珍しいが、主部に向かって1回上昇するごとに音符を増やしていくやり方がユーモラスな作品となっている。

音楽監督の松下氏ならではの解釈のベートーヴェンをお楽しみください。

思いやりのある質の高い医療を提供いたします。

社会医療法人 抱生会

丸の内病院



〒390-8601

松本市渚1丁目7番45号

Tel : 0263-28-3003 (代)

Fax : 0263-28-3000 (代)

Email : kanri@marunouchi.or.jp

出演者

音楽監督	松下 功	クラリネットソロ	傳田 高廣	トレーナー	山上 貴司	
フルート	宇治 義浩	早川 育	1 st バイオリン	外山 陽子	清水 きよみ	竹村 恵里
オーボエ	縄田 昌司	古川 美登里		青木 真喜子	後藤 玲子	萩原 幸男
クラリネット	湯本 正芳	続木 奏絵	2 nd バイオリン	下平 朋彦	鈴木 里佳	吉池 明子
ファゴット	中村 由美夫	新林 友美		北澤 直子	瀧澤 裕子	
	山上 貴司		ビオラ	橋沢 博子	田中 美恵子	田中 佑美
ホルン	金井 弘	飯森 芳宏		石田 玲子		
	山口 直人	濱村 亮一	チェロ	後藤 竜太	深見 悠矢	小島 遼子
トランペット	橋沢 宏文	小山 修二		北沢 加奈子		
パーカッション	塚田 喜幸		コントラバス	梅沢 敦子		
チェレスタ	中野 もと子		ハープ	丸山 京子		